

北海道 国際理解教育研究協議会



会報 第51号



会長 高橋 承造



事務局長 真木 孝輝



第22回研究大会開催に向けて

第22回北海道国際理解教育研究大会・札幌大会

実行委員長 橋本 フミエ

(札幌市立福移小中学校長)

研究主題「広く世界に目を開き、未来を切り拓く児童生徒の育成～地球市民として生きる力を育てる～」を掲げ、一年次（平成11年度）の北見大会、二年次（平成12年度）の室蘭大会において、「総合的な学習の時間」を研究の中心に据えて実践的に究明してきました。いよいよ、第6次3年継続研究の最終年次の札幌大会を迎えることになりました。

折しも、アメリカ合衆国において同時多発テロ事件が発生し、報復攻撃が計画されるなど世界中を震撼させている現状があります。まさしく、国際理解教育の生きた教材、資料が提供されている状況下にあるといっても過言ではありません。どのような事態に進展するのか、心が痛み目が離せない現実が児童生徒の耳目に触れている毎日でもあります。

この情勢下にあって、日本に期待されているものは何か、国際社会においてどのような貢献ができるのか、児童生徒が国際関係を意識し、世界における日本を意識する絶好の機会でもあり、自分が地球市民としてどう生きなければならないのかを考えさせるときでもあります。共生の心を持ち、平和な世界を築く地球市民の基礎を育てることに視点をおいた実践研究を積み重ねてきた会員の皆様とともにこの現状を見据えて行きたいと考えています。

課題別分科会、授業公開、更に、新しい試みとしてワークショップを設け、研究主題に迫る札幌大会であり、担当者において、それぞれ、鋭意努力を積み重ねて準備を重ねて来ました。札幌大会の成果が直ちに教室の授業につながって行く、千載一遇の機会であり、即時性の研究討議が行われるものと期待しています。

本大会にご参加くださる皆様の熱い想いで実のあるものになりますことを心から願っています。

第22回 北海道国際理解教育研究大会



札幌大会

公開授業はどんな内容なの？

11月1日・2日に行われる第22回北海道国際理解教育研究大会札幌大会では、幼稚園から高等学校まで合わせて11の授業が公開されます。それぞれの授業の内容がほぼ固まりましたので、今回その授業作りに携わっている先生方や直接授業される先生方から授業の主な内容やねらい、見どころ等を書いていただきました。

高等学校の授業紹介

高等学校の授業は、北海道インターナショナルスクールの3つのクラスで公開してくれます。科目や主な内容について授業者の先生方に聞きました。

科目：ソーシャルサイエンス（社会科学）

授業者：Mr. Jefferey Hill

内容：現在学習しているのは心理学ロールシャッハテストやパラサイコロジーなど、心理学者たちが、調査している様々な方法を実施、教授していきます。

科目：時事英語

授業者：Mr. Keith Richrdoson

内容：時事問題を扱っている関係上、11月2日の授業内容を決めてしまうのは難しいです。ちょうどアメリカでの同時多発テロが予測できなかったようなものです。（現在この出来事に伴ってさまざまな問題提起が行われ、授業が展開されています。したがって、それまでに計画していた内容が変更になりました。ただ、11月までにはもとの計画にもどることができるかもしれません。）私たちの授業はどんな事柄を選択するかは自由です。コンピュータールームでインターネットを使用することもあれば、報告文を書いたり、CGでまとめたりすることもあります。また小グループに分かれてディベートすることもありますし、あるテーマについて下書きや走り書きをしていることもあります。今後も時事問題関連のさまざまな内容を扱っていくつもりです。

科目：アメリカ文学

授業者：Ms. Tina Schwettman

内容：アメリカの劇作家による作品を学習中かもしれませんし、その時までには終了しているかもしれません。私の授業では通常講義とペアまたは小グループでの話し合いで行っていますが、そのほかの活動が入ることもあります。

中学校部会授業紹介

札幌市立美香保中学校

生徒 2学年選択英語クラス 40名

指導教諭 清水 由紀子

北海道インターナショナルスクール

生徒 中学生 38名

指導教師 中村 知子・Tina Schwettman

「日本の良さ」について自分の考えを、わかりやすく主張しよう

私の考えた「日本の良さ」は、○○○○○です。そう考えた理由は…

主張

質問・感想

△△△について、もっと詳しく聞きたい
外国では…だよ

出てきた「日本の良さ」のうち、これからも残しておきたい、最も大切なよさを1つ選んで発表しなさい

◇◇◇◇という意見が多いね

いや、×××の方がいいのではないかな

◇◇◇◇と××××では、…という理由で◇◇◇◇がいいな

いろいろな視点を持った人と交流することは、自分の見方が深まったり、広がったりして、有意義なことだな！

「Hello ! Mr. ○○」 「How are you ?」 「I am fine thank you. And you?」 「I am fine ,too.」

「What animal is this?」

動物当てクイズ

動物のものまねを加えて、動物当てクイズへの興味を高める。

英語の鳴き声をヒントに動物当てクイズを行い、五感を通して英語への関心を高める

ALT や友達 の発音 に注目 し、日本語での鳴き声 との違 いも意識 させる ように 教師 はかかわって いく。

本時のまとめをゲームを通して楽しく行う。

アニマルバスケット

発音に注意して・・・
大きな声で・・・

1年生やお母さん方に来てもらう前に、本時は、各コーナーでリハーサルを行い、友達同士のよい点を見つけ合う。

すずかけ学級でもコーナーを作り、2年生との交流を行う。

遊びのコーナー-B

遊びのコーナーは、これまでに外国籍の保護者(GT)から教わったり、自分たちで調べた世界の遊びコーナーである。

遊びのコーナー-A

お客さんになった子が、友達のコーナーで遊んだ後に、評価カードをポストに入れて、交流を図る。本番に向けて、よりよい『世界の遊びランド』にしようという目的意識を大切にす。

遊びのコーナー-C

世界の遊びをお互いに教え合う中で、日本の遊びとの違いがクローズアップされてくる。

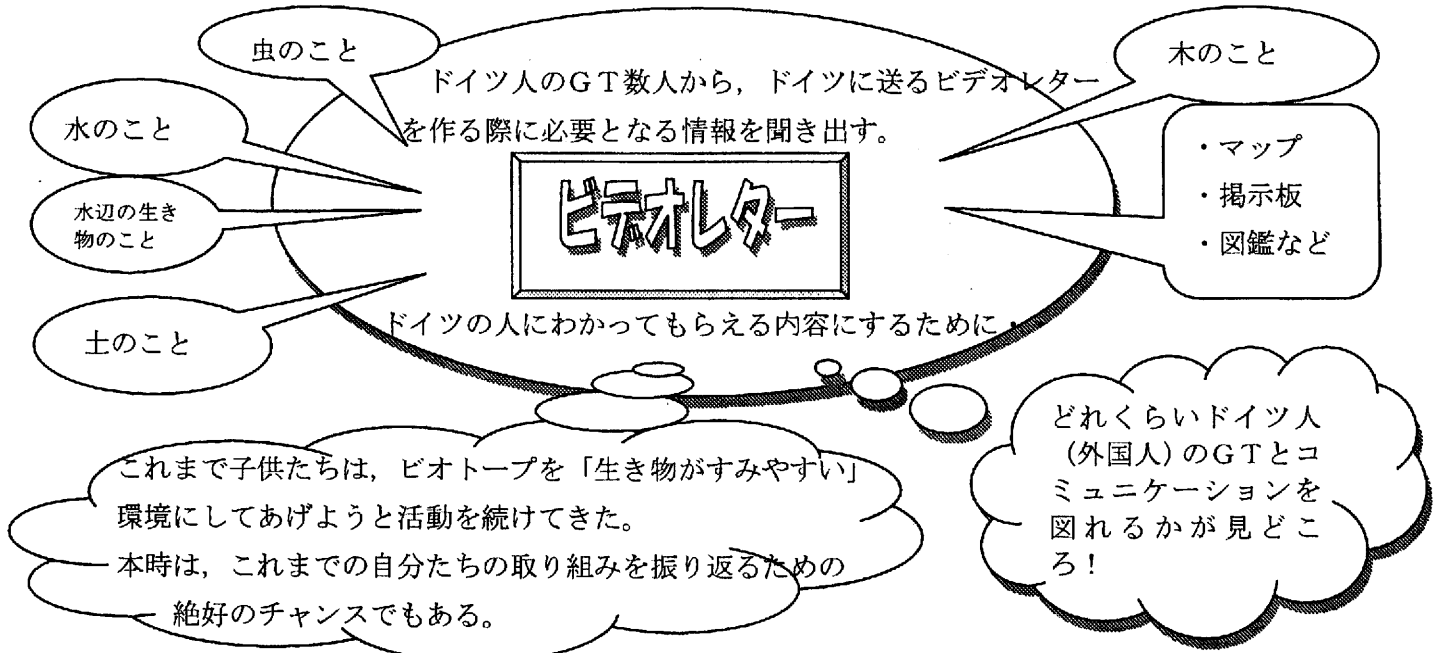
遊びのコーナー-D

いろいろな世界の遊びコーナーを巡り、それぞれの国独自の特徴にも目が向いていく。

苗穂小学校3年生の授業

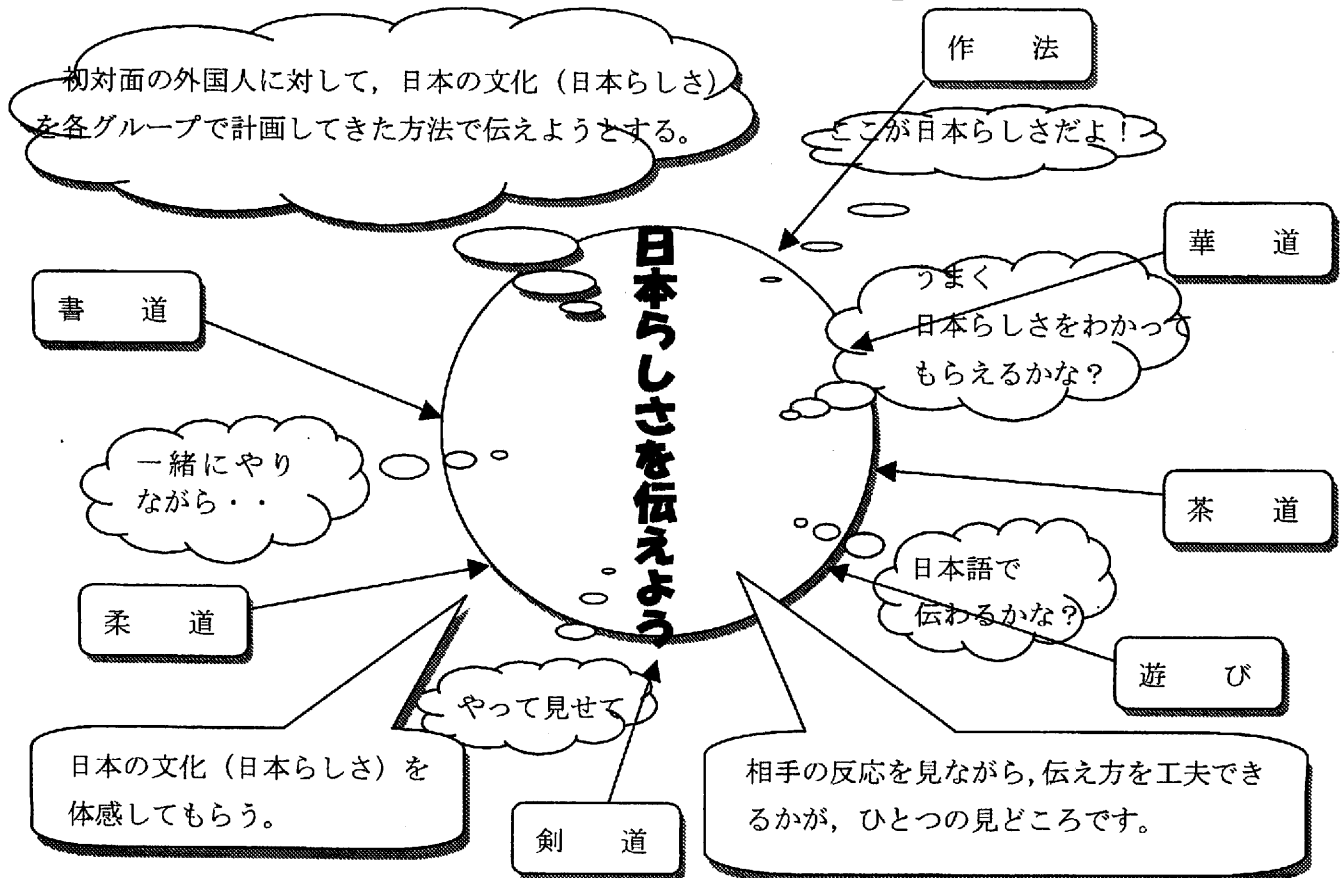
チャレンジタイム『ぼくらのふれあいビオトープ②』

ぼくらのビオトープをドイツにいる森先生やドイツの人たちにビデオレターにまとめて知らせよう！



苗穂小学校4年生の授業

チャレンジタイム『世界を見つめよう!』



苗穂小学校5年生の授業

チャレンジタイム『情報発信基地 in 苗穂』～こちら、苗穂放送局

<番組作りは、今回で2回目>

FＭ放送で『外国人が住む町、苗穂』を紹介しよう

外国人と一緒に放送内容を考えよう

メキシコ人の保護者

・日本との違いは？
.....？

バングラディッシュの保護者

・苗穂は住みよい町ですか？
.....？

予想していたことと違う！
どうして？

中国人の保護者

・地下鉄があって便利ですか？
.....？

韓国人の保護者

・食べるものは、どうですか？
.....？

外国人は、こんなことで
困っていたのか！

新たな番組作りへの課題

苗穂に住んでいる外国人にと
って、苗穂がどんな町である
のかを知ることで、自分達の
町、苗穂を再認識する。

広い視野で、苗穂を見直し
自分達ができることを考えた番組作りへ

苗穂小学校6年生の授業

チャレンジタイム『英語パーティーを開こう』～ハロウィンパーティーをしよう～

参観されている先生方を誘って、
ご案内しよう！

Welcome to our party! Turn right.

Let's enjoy our party! Go straight.

仮装発表会をしよう

「Trick or treat」をしよう！

What ~. This is ~.

Who are you?

I am a ~

ハロウィンパーティー
を楽しもう

外国のゲームをしよう！

Let's play ○○game.



友達や ALT と英語を使って外国の
お祭りにひたり、外国の文化を肌で
感じるような活動を考えた。
参観者も一緒に・・・！

今度は、クリスマス・・・

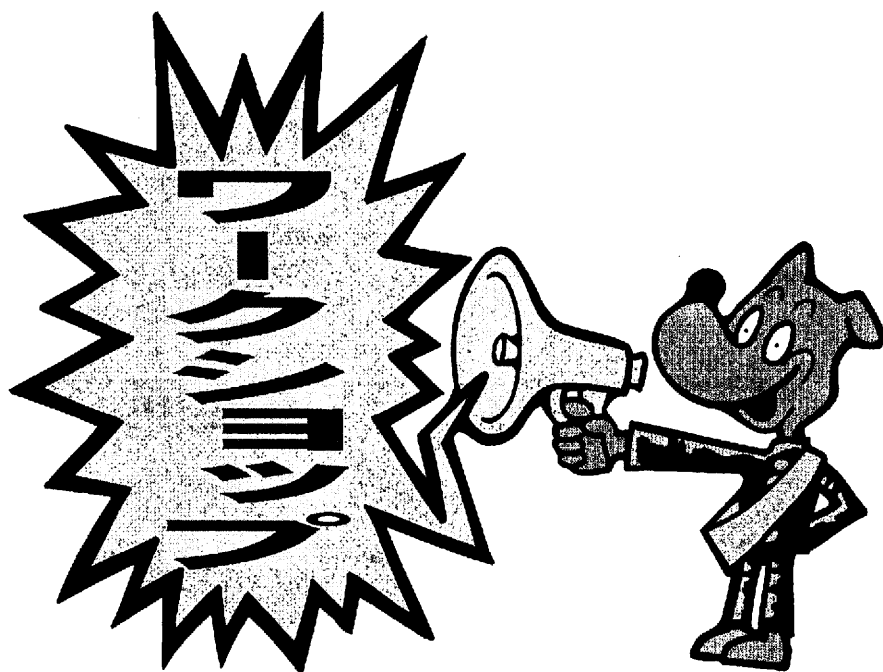
幼稚園部会授業紹介

幼稚園部会は、年中組（４才児）と年長組（５才児）の「英語遊び」の時間を公開します。前半２０分が年中組の公開、後半２０分が年長組の公開です。どちらも、ゲームを通して英語にふれ、楽しく英語を身につけていけるように工夫されています。

活動の流れ

年中組	年長組
<p>Greeting 元気に英語であいさつ</p>	<p>Greeting 元気に英語であいさつ</p>
<p>Game ゲームで遊ぼう 今日のゲーム 「命令ゲーム」 Roy先生の指示を聞いて、テーブルの上からその指示とあうものを選びます。さらに、それを友達にあげたりする活動も入れながら簡単なもの名前を聞いたり、物の受け渡しの時の英語のフレーズをいうことができることを目的としています。</p> 	<p>Game ゲームで遊ぼう 今日のゲーム 「ミスター ポテトヘッド」 Roy先生の指示を聞いて、その指示通りにMr Potato Headを作っていきます。これを何回か繰り返して、特徴のちがうMr Potato Headを何体か作ります。 そして Roy先生の指示を聞いて、それにあうMr Potato Headを選びます。この活動を通して、体の部分の名前や数を英語で聞いたり物の受け渡しの時の英語のフレーズをいうことができることを目的としています。</p>
<p>Song 英語の歌を歌おう 歌の意味を考えながら、それを踊りながら表現します。子供達はどんな風に表現してくれるのでしょうか。楽しみです。</p> 	<p>Speech 英語で自己紹介 トライトライウィークで取り組んだ英語の自己紹介をします。どんな自己紹介があるのでしょうか。楽しみです。</p>
<p>Greeting 最後までしっかり英語であいさつ</p>	<p>Greeting 最後までしっかり英語であいさつ</p>

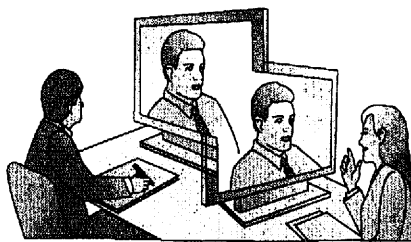
４月から取り組んできた授業の形を大切にしながら作りました。今までの取り組みがいろいろな場面や子供達の姿となって表れてくれることと思います。よろしくお願ひします。



会員のみなさんにもすでにご案内していますように、今回の札幌大会では、幼稚園から高等学校までの授業公開とその分科会、4つの分科会に別れての課題別分科会、そして初めての試みであるワークショップを計画しています。これまでの2回にわたる案内では、4つ行われるワークショップのテーマについてしかお伝えできませんでしたが、その内容も固まりましたのでワークショップの内容について紹介をしたいと思います。

参加者が体験・実感しながら楽しく学び、考える参加型体験学習を通して一方的な情報の伝達ではなく、主催者、参加者が共に学び会える場としていきたいと考えています。

ショップ1 TV会議

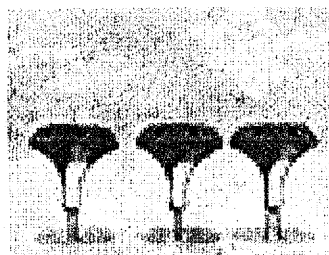


～苗穂小学校と香港日本人学校大埔校を結んで～

TV会議システムを使い苗穂小学校と香港日本人学校大埔校を結んでリアルタイムで国際理解に関する内容で討議を行う予定です。香港日本人学校大埔校には、英語圏を中心とする15カ国の児童が在籍する国際学級があり今回は、この国際学級に在籍する児童生徒数名の参加も予定されています。香港の現地の様子を伝えてもらいながら、参加者はリアルタイムで質問や話し合いをすることができます。コーディネーターは、前香港日本人学校大埔校教頭の田代雄一

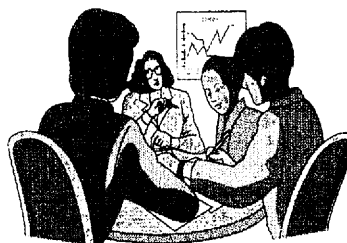
先生ですので、現地の事情も大変よく知っておられます。

ショップ2 ハローイングリッシュ



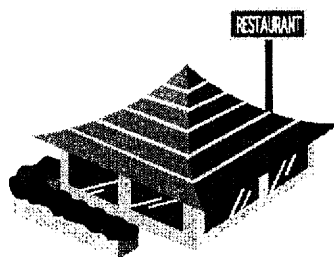
NHK の教育テレビ「えいごリアン」を利用しながら学級の子供たちと英語を楽しんだ札幌市立真駒内緑小学校の田中譲先生の実践を通して、子供たちが英語であそびながら異文化を感得するアクティビティを紹介します。当日は、「セブンステップス」、「動物クイズ」、「クッキーをとったのはだれ？」などの活動を参加者にも実際に体験していただきます。

ショップ3 座・討論会 日本の教育



私たちは、日常自分たちの立場から教育現場を見ることが多く、親の視点で学校を眺めたり、国際的な視野で日本の教育現場を眺めたりする機会は少ないと思います。そこで、ショップ3では、現在日本で暮らしている外国の方や日本の学校にわが子を通わせている外国の方々に日本の教育を語ってもらい、親の立場・異文化からの視点で日本の教育を見直す機会にしたいと思っています。テーマを設定し、いくつかの小グループでの座談会を体験してもらう予定です。参加者にも自由な意見交換をしていただければと思います。

ショップ4 地球市民を育てる教育



最近、市民の立場から「地球市民」を育てる活動が盛んに行われています。ショップ4では、日本 YWCA 地域部幹事の成田康子さんを講師に、参加者にも現場の実践で使えるような内容をということで考えています。成田さんは、数多くのワークショップを実践されているだけでなく講師として高校などの教育現場での指導経験もある方です。今回は、子どもの生活の中で身近なファーストフードを取り上げ、ファーストフードができるまでを通して子どもたちに地球環境のことを考える機会になるようなアクティビティを予定しています。

奈良大会に参加して

北海道国際理解研究協議会 事務局 研究部長
札幌市立月寒小学校 中村 淳

今年の全国大会が8月2日、3日の両日奈良県奈良市において開催された。21世紀最初の大会ということもあり全国から多くの実践者が集まった。4分科会にのべ29本のレポート発表があり、特に、第3分科会「学校現場における国際理解教育」にほぼ半数にのぼるの14本の発表があり、全国でも学校現場で国際理解教育の実践が高まっていることを実感した。

1. 大会主題

同じから異なりへ

◎ 大会主題の背景

この主題の背景には、これからの社会において、互いに文化や、人権を尊重し共に生き、地球規模の様々な問題を解決していくためには、グローバルな視点を持ち、地球に生きる一人の人間として、みんなと共に解決していこうとする意欲と実践力が必要となるという強い認識があると考えられる。

ところが、学校現場では、個よりも集団を大切し、同質性も求める教育が長い間にわたって進められ、そのことが、異なるものを排除しようとする動きを生んできたのも事実である。

そこで、我々は「同じことが最善である。」という考えから「異なることは豊かなこと」という意識の変化をしなければならないというメッセージがこめられていると考える。

2. 大会の内容から、

この大会は、古都奈良という土地柄もあり家族的な雰囲気の中で行われた。一人一人の会員の姿がはっきりと見える会であった。

また、昨年の横浜大会の中で示された、教室での実践を土台に、そして、地域開かれた実践の流れはしっかりと定着したものと考え。そのため、分科会でNGOの参加は当たり前となり、大会2日目においても子どもたちのワークショップの様子が公開された。

このように、国際理解教育は、学校だけではなく、家庭、地域、そして市民団体との連携との中で深化させていこうという流れは定着したものと考え。

① 分科会

第1文化会	海外での実践	発表者	7
第2分科会	帰国・外国人児童生徒への取り組み	発表者	4
第3分科会	学校現場における国際理解教育	発表者	14
第4文化会	地域社会での国際理解	発表者	4

今回の大会では、4つの分科会で29発表があった。その中で、第3分科会の発表がほぼ過半数を占めていることから、総合的な学習において国際理解教育の実践が着実に進んでいることがうかがえる。

特に、地域の実態を生かしなから、継続的な実践の発表が多かったように思える。地域をキーワードとして、そして、子どもたちの具体的な問題解決をはかっていこうとする取り組みはしっかりと定着したものと考え。

また、英語活動をどう取り上げていこうかということも参加者の関心を集めていた。その中、英語を国際理解教育の中でどう位置づけていくかということではなく、一步踏み込んで「英語活動」「英会話活動」というように教科活動としてどのように位置づけていこうとするのかという傾向が明らかになってきたと思われる。学校独自のハンドブックをつくり、実践を深めているところもあり、総合的な学習の時間における、「英語」について本会でも整理する必要があるように思われる。

最後になるが、今回の分科会では、北海道の実践を発表する機会を得、高い評価をえたことを報告しておきたい。

I E フォーラム

今年の8月に奈良市で開催された「全国研究担当者会議」に参加してきた。地元の奈良県をはじめとして、南は長崎県から北は北海道まで全国の仲間が一同に会し、研究について話し合う会である。

ここ数年全海研は全国の研究のセンターとしての役割を担おうと様々な方策をとりつつある。特に、国際理解教育のねらいを提示し、その中で、個人としての国際性の資質を育てながら、「共生社会」の実現に向けてという具体的な行動の目標を掲げているのは注目すべき点であろう。

北海道の研究がそうであるように、国際理解教育が個人の国際性を育む場ではなく、よりよい社会を作るためにどう生きていくのか子供の生き方を育む場としての国際理解教育の在り方を問うているのである。

この10年間、総合的な学習の出現とともに我々の研究は、派遣教員のサークル的なものから広く学校現場を巻き込んだムーブメントとして盛り上がったことは間違いない。しかし、この動きが教育活動として、これからの10年間に高まりを見せる保証はない。そういう意味からも、全海研が子供の生き方、特に、子どもたちの未来社会を考える場としての国際理解教育の在り方を考えていこうとしていることは、我々の研究に対しても、多くの示唆を与えてくれるに違いない。



図書紹介



異文化理解

岩波新書

著者紹介

青木 保 1938年東京生まれ
政策研究大学院大学教授

著者は、大学において「文化政策」の研究と研究に携わっている。特に、近年は「対外文化政策」について研究している。近年はNHKテレビの「人間大学」において「異文化理解への12章」という題名で講義を行うなど異文化に関する発言を積極的に行っている。

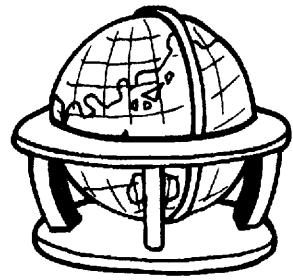
ニューヨークの事件を知った瞬間、ハッチソンと「文明の衝突」論を即座に思い出した人も少なくはないと思う。この事件を話題にするまでもなく、社会のグローバル化は進み、日常的に「異文化」と出会うことは多くなった。その中で、宗教に代表されるように異文化間の衝突は激しさをまし、また、文化の画一性をもたらす社会の影響も無視できない状況である。

著者は文化人類学者としての体験を生かしながら、改めて「異文化理解」について考えその理解の重要性について論じている。そして、多文化共生の社会を目指す上でなぜ、人々は深く理解しなければならないのか、また、どうすれば理解が出来るのをわかりやすく述べている。特に、第4章「異文化との対話」では、文化を閉鎖的にとらえるのではなく、より開かれた形の中で対話を通して自分の文化をそして異文化を理解していくプロセスの大切を主張している。

「文明の衝突」が今まさに現実化しようとしている今、我々が何をよりどころに「文明の対話へ」と舵取りをしていくべきなのかその答えを示してくれる本ともいえる。まさにタイムリーな本といえる。

(北海道国際理解教育研究協議会 研究部長 中村 淳)

海外からのお便り



海外でご活躍中の先生方からも Eメールでお便りが届いています。今回は、今年度旭川市からベトナムのハノイ日本人学校に派遣された武山昌裕先生から8月と9月末に『ハノイ通信』というタイトルのお便りが届きました。その一部ですがハノイについて様子や出来事を書いてくれていますので、会員のみみなさんにも紹介します。

「ハノイってどんな国？」の巻 その1

正直なところ、「ハノイ」って聞いてはっきり場所をおさえることが出来るでしょうか？赴任が決まった頃、私は「ハノイ」の場所を正確には知りませんでした。いろいろとインターネットや本、まわりの先生方などからお聞きし、下記のことがわかった程度でした。

- 東南アジアの中にあるベトナム社会主義共和国の首都
- ベトナム戦争が終わって30年近く経過したところ
- 発展途上で昔の日本を思わせるところ
- 最近マスコミや観光客に注目されているところ
- ベトナムの細かい情報などがあまり日本などに伝わらないところ
- 予防接種をいっぱい打っていかないと行けないところ
- 旭川から4000km離れたところ
- ハノイには日本人が1000人ぐらい住んでいる
- そして何とかなるところ

実際にこのハノイに赴任してみると、想像していたこと半分、全然違うところ半分いろいろとおもしろいものがたくさん隠されていました。



「ハノイってどんな国？」の巻 その3

今回は、「車窓から見える風景」ということでハノイの様子をお知らせしたいと思います。毎朝午前7時に私は、家を出ます。車に揺られておよそ20分で学校に到着するのですが、その車窓から見えるハノイの様子は、日本とは大変違います。

朝7時といえば、旭川ではまだ車もすいていて、人通りもあまりありませんが、ハノイではすでに本格的な活動が始まっているのです。

以前、日本人学校の修学旅行当日、朝4時半に家を出たことがあったのですが、あたりはまだ薄暗い感じ。でも、ハノイの人々はすでに起きて活動をしているのです。その時間帯の人々は、昼間暑さで運動することができないものですから、早朝の涼しいうちに運動をしようとジョギングをしたり、ヨガみたいなのをしたり、散歩したりしています。また、その頃から仕事の準備をしだすのは、コンビンザン（定食屋さん）ポー（ベトナムうどん屋さん）それと、突然路上に出没する花市場や野菜市場その他の市場の人々です。

そして、ちょうど私が出勤する頃には、道路はバイク（6割）と自転車と（2割）、自動車（2割）で大混雑。あまり交通ルールが徹底していないせいか、そういうルールなのかよくわかりませんが、ちょっとしたすき間があれば割り込みしたり、急に止まったり、信号無視、反対車線を悠々と走行するなど、はらはらドキドキの通勤になっています。でも、みんなスピードを出していないものから、大きな事故はあまりないようです。

一方コンビンザンやポーやさんには、朝食を食べようとする人々でいっぱいです。小中学校もちょうど登校時刻になっています。

また、市場にも人がいっぱいいて、朝つぶしたばかりの豚や鶏などをさばいている様子やミンチ肉を作ってる様子、豚の腸に具を入れている様子なども間近で毎日見ることができます。

なぜ車に乗りながらこんなに詳しく見ることができるかというと、ベトナムの店や市場などは全て道路沿い（細い道も住宅街の道も当然のことながら）に面しているからなのです。ベトナムの税法上道路沿いに家を構えると税金が高いそうですが、何でもいから店を出すとその税金がかなり安くなるそうです。一度ハノイに来られるとおわかりになりますが、一品一店という店が大多数を占めています。たとえば、電気屋さんでなくテレビ屋さん、雑貨屋さんでなく鍋屋さん、自転車やさんでなく空気入れ屋さん等という感じで・

...

道路工事もさかんで、ショベルカーやブルドーザー等を使わず剣先スコップ一つで私の背ほどある砂山を移動している人々がすでに汗だくになりながら頑張っています。

またバイクにつぶした豚を乗せて運んでいる人や、大きなガラス（入り口用）をバイク2人乗りで運んでいる人や、シクロで3m以上もある材木を運んでいる人など多種多様です。

20分間このように日本と違う様子を目の当たりにする物ですから、あっという間に学校に着いてしまいます。

「ベトナムは大変活気がある」とよく言われますが、このような様子からもうかがえます。

